

(1)保存地区の概要

地区名	有田町有田内山
種別	製磁町
面積	約15.9ヘクタール
選定年月日	平成3年4月30日

特徴 有田内山は、17世紀前期より磁器生産で発展した町です。江戸時代に「上の番所」と「下の番所」で区切られた約2kmの範囲が保存地区となっています。昭和10年(1935)に拡幅された表通りには、道路に面して商家や商業施設、窯元の屋敷等が建ち並び、江戸後期から昭和前期まで、また、和風から洋風まで、様々な建物が調和する独特な景観を見ることができます。また、裏通りには、窯屋や作業場が多く集まっています。現在も製磁の町として知られ、各建物で生活や家業が営まれています。



(2) 保存地区のあゆみ

昭和59年度(1984)	伝統的建造物群保存対策調査
平成元年4月(1989)	町並保存対策課を設置
平成元年12月(1989)	「有田町都市景観条例」制定
平成2年(1990)12月3日	有田町都市計画「有田内山伝統的建造物群保存地区」の決定
平成3年(1991)4月30日	重要伝統的建造物群保存地区選定

(3) 保存地区の保存と整備

特定物件	伝統的建造物161件（主屋142件，付属屋16件，社寺3件） 環境物件130件（トンバイ塀21，樹木5，石垣8，石段3，石造物79，石門柱6，レンガ塀2，井戸5，門1）
平成3年度～令和元年度	修理修景事業123件（うち伝統的建造物116件，非伝統的建造物4件，環境物件3件）



修理前



修理後

平成29年度 伝統的建造物保存修理事業
村島家 屋根葺替，外壁改修，建具取替
内部の天井板に雨漏りがみられ，また正面外壁は銀行
として使用していたため，タイル張りとなっていました。
セメント瓦の葺替と古写真や痕跡をもとに正面外壁の
復原を行いました。

(4) 保存地区の活用とまちづくり

① 佐賀県重要文化財「有田異人館」保存修理事業



修理前



修理後

「有田異人館」は、有田町が田代家より寄贈を受け、平成26年度～平成28年度に保存修理事業を行いました。

平成29年度より一般公開をしています。

平成30年12月25日に国重要文化財「旧田代家西洋館」に指定されました。

② その他の町有施設



独立支援工房赤絵座

昭和前期建築の住宅主屋を、平成10年度に有田焼の絵付け体験施設としてオープンしました。現在は、「独立支援工房赤絵座」として若手陶芸家を支援する施設となっています。

大正期建築の住宅主屋を、平成22年度に改修し、一般公開しています(現在は、毎週土曜日及び日曜日に公開)。



小路庵

(4) 保存地区の活用とまちづくり

④ 町並みを活用した事業



ガイドと巡る！秋の有田の町屋歩き



きもので秋の有田さんぽ



有田ウインドウディスプレイ甲子園

・ガイドと巡る！秋の有田の町屋歩き
観光ガイドの案内で巡るイベントです。町屋では、所有者による解説を聞くなどして歴史や建築様式を学びます。

・きもので秋の有田さんぽ
きものをレンタルして、町並みを歩くイベントです。

・有田ウインドウディスプレイ甲子園
陶磁器店のショーウインドウを高校生グループが飾りつけ、その技術やデザインを競うコンテストです。

詳しくは、有田観光協会 ありたさんぽ<https://arita.jp/>を御覧ください。